

きょういく・さど

平成20年9月9日
第7号
佐渡市教育委員会学校教育課

この夏の感動に

教育次長 藤井武雄

日本中が熱い眼差しで一喜一憂した17日間の北京オリンピックのドラマが無事幕を閉じた。

メダルと世界記録を目標に各選手は健闘した。テレビ画面では想像できない限界を超える激しいトレーニングや日常生活のエピソードなど「愛と涙と感動のドラマ」で、各選手の栄冠は精神力、1/100へのこだわりと執念、団結力を見せた世界の祭典でもあった。

一方「子どもたちに夢を与えたかった。・両親にメダルを架けてあげたい。」これまで支えてくれた家族、コーチ等に対する感謝と優しさが画面から感じられる微笑ましい人生ドラマでもあった。

さて、この栄えある成績には、殆どの選手が低年齢から家族の熱い思いと良き指導者とのめぐり合いで勝ち得た戦績でもあるが、一人一人の子どもたちの資質を見出し、科学的な分析データとトレーニング環境と選手個人の強靱な精神力による結果であるをつくづくテレビの前で感じた。

この夏、全国中学校体育大会が新潟市を始め北信越各地で開催され、佐渡市内中学生2名が参加し、奮闘し善戦したことを聞いた。また北信越大会で惜敗した生徒も数名いたとも聞いた。これらの市内出身の児童生徒から夢のオリンピック出場を目標に精進し感動のドラマの主人公となる選手が生まれるよう期待したい。

最後に佐渡市内小中学校現場や体育団体から小規模学校でクラブ活動ができない学校教育とスポーツ少年団活動の連携体制の必要性。遠隔地の児童生徒は資質に合った競技を選択できない、など課題の声を聞くが、子どもたちの体力向上と競技力向上の観点から良い知恵を出し合っていきたいと考えている。



中学校区計画訪問に向けて

指導主事 川上治男

2学期から各中学校区ごとの訪問を始めます。学校評価の目的は、次の2つです。

1年間の学校の取組を振り返り、自校のよさや特色、児童生徒の成長等を確認し、より一層の充実に向けて改善の方向を明確にするために実施

評価結果を外部に公表し、保護者や地域の人々に、児童生徒の成長、教職員の努力等を理解してもらい、学校への信頼を確かなものにしてもらうとともに、改善すべき課題等を共有し、連携・協力して児童生徒の教育に当たるために実施

この目的に照らして、次の点から見直すことが大切になります。

【学校への信頼を一層確かなものにする】

教育活動で具体的に児童生徒にどのような力を育てたいかを説明すること

日常的に学校の情報提供を行うとともに、保護者や地域の人々の意見や要望等を受信し、双方向の情報の流れをつくること

自己評価結果に表れた問題について、学校が何をするかの手だてを明確にすること

「学校関係者評価」等を活用して、自己評価の客観性、信頼性を高めること

【保護者や地域の人々と連携・協力する】

「育てたい子ども像」を、より具体化して共有すること

共有したことを基に、学校、家庭、地域それぞれが担うべき役割を明確にすること

連携・協力できる機会や場を具体的に設定し、保護者や地域とともに取り組むこと

このことを踏まえ、「公表」から「協働」へ向かう学校評価を進めるために、次の工夫・改善に努めてくださるようお願いいたします。

学校関係者評価を有効に活用するなどして、学校の情報提供をより確かにしたり、保護者や地域の人々の意見や要望を生かしたり取り組むこと

教育活動、運営活動の評価項目を、保護者や地域の人々と連携・協力していくことを視野に入れて見直すこと

「いじめ根絶スクール集会」を開催

下越教育事務所指導主事 原 功 治

県民総ぐるみの「いじめ根絶県民運動」の一環として、市教育委員会主催の「いじめ根絶スクール集会」が、8月1日(金)にトキのむら元気館で行われました。

市内5小中学校で実行委員会を組織し、計画、運営にあたり、当日は保護者、一般も含め約220名の参加がありました。

集会では、4か校の代表から「みんなが仲よくなるために」いじめ根絶強調月間を中心に取り組んでいることが発表されました。

小学校からは、

- 地域と一緒にいるあいさつ運動
- いじめをなくす標語募集
- 寸劇に対する保護者の感想発表
- 縦割り班での集会活動
- 友達のよいところを紹介する活動

また、中学校からは

- 生徒によるパネルディスカッション
- 「いじめをなくそう」生徒アンケートの結果
- 学級での討論
- 学校生活に関する「友だち議会」の様子等、児童生徒が中心となり、取り組んでいることについて紹介がありました。

休憩後、ポストカード作家の宮越友理さんから「笑顔の花を咲かせよう」と題し、講演がありました。ご自身が経験した中学校時代のいじめ不登校、難病と向き合って考え行動したこと等について話されました。

集会に参加したそれぞれの学校でも、児童会や生徒会が中心になって「いじめ根絶」や「みんなが仲よくなるために」をスローガンに工夫して取り組んでいます。今年の紹介を参考に、各校での「いじめ根絶に向けた取組」が継続強化されることを願っています。

各学校では、これからも、

- 「子どものSOSを見逃さない」「いじめを許さない」学校づくりの推進
 - 「豊かな心」を育成する教育の推進
 - 家庭・地域・関係機関と連携した取組
- にご尽力くださいますようお願いいたします。

ストップ・ザ・いじめ

~やめよういじめ 許さないいじめ~

いじめ根絶にいがた県民会議



廃棄された備品！？

管理主事 児玉勝巳

新しい学習指導要領は、今までの改訂の流れと違って、学習内容が増えています。

改訂に伴う変遷で、教材備品のことを考えてみると、今までの流れでは、学習内容が減っていくたびに、不要になった備品は資料室等の奥で眠っているか、廃棄されているのではないのでしょうか。

ところが今回は、削除された内容が復活したのものもあり、必要な備品が廃棄されているのではと懸念しています。

算数・数学、理科については、移行期間中に前倒し実施ということもあり、悠長に構えてはいられません。

新学習指導要領が、文科省より教員全員に配布されました。このことも画期的です。

具体的に、どのような備品が必要になってくると示せばよいのですが、各学校では来年度からの移行を見据え、備品を計画的に揃えなければなりません。



就学に関する相談

囑託指導主事 銅 郁 夫

教育委員会では就学に心配な子をもつ保護者の相談に応じていますが、小学校においても、校区の幼稚園や保育園と連携し、子どもの様子について情報を得ることが大切です。

就学に心配な子を持つ保護者は、誰よりも就学先の校長先生に話を聴いて欲しいと思っています。学校は、関係機関と連携を取りながら、保護者と面談できる機会を持つことが大切です。校長先生が真剣に話を聴き、子どもの学校生活について一緒に考えてくれることが何より保護者に安心感を与えます。

気をつけなければならないことは、保護者の話を十分聴き、思いをくみ取り、理解しようとする態度です。「教える」のではなく、「共に考える」という姿勢で接することです。

校長先生が真剣に相談にのってくれたことがとてもうれしく、「あの学校のあのクラスなら安心して子どもを入学させることができる」と話した母親がいました。